

# 令和7年度 水循環アドバイザー制度の 活用実績に関する情報提供



水循環ロゴマーク

内閣官房 水循環政策本部事務局  
令和8年1月

流域（地下水）マネジメントに取り組む、又は取り組む予定の地方公共団体等を対象に、流域水循環計画の策定・実施に必要な技術的な助言・提言を行う「水循環アドバイザー制度」による支援を実施。

## 支援の流れ

### 内閣官房 水循環政策本部 事務局

- 申請書の内容を審査し、支援の決定を通知。
- 申請を踏まえ、必要に応じて、申請団体及び候補者と調整を行った上で、申請団体に候補者を提示。

水循環アドバイザーを  
決定

地方公共団体等から  
支援を申請

### 水循環アドバイザー

- 流域マネジメントに関して一定の知識を有する有識者や地方公共団体の職員等



現地派遣やオンライン会議による助言・提言、情報提供等

※現地派遣は最大3日以内、  
オンライン会議は最大10時間以内

### 地方公共団体等

(流域水循環協議会及びその構成員を含む)

- ・解決困難な課題が発生
- ・知見や助言が必要 等

- ・流域水循環協議会の設立、運営
- ・関係者間の合意形成
- ・課題や目標の設定
- ・地域や住民の関わり方
- ・専門的な知見や経験 等

- 課題の解決、知見の習得等により、流域マネジメントの取組の更なる展開と質の向上に貢献。



水循環アドバイザーには、地方公共団体等のニーズや課題に応じた技術的支援を目指し、多様な分野の有識者を登録しており、学識者から地方公共団体の職員まで様々。また、支援内容についても、会議への出席、シンポジウムの開催、課題を抱える部署への助言など、地方公共団体等の要望に応じた内容で実施。

- ・ 計画策定
- ・ 貯留・涵養
- ・ 地球温暖化
- ・ 水質改善
- ・ 水環境
- ・ 普及啓発・広報
- ・ 水利用
- ・ 防災・減災
- ・ 国際連携
- ・ 湧水保全
- ・ 農地・農業
- ・ 教育・人材育成
- ・ 地下水
- ・ 生態系
- ・ 民間の取組
- ・ 水インフラ
- ・ 水辺空間
- ・ 地域行政
- ・ 地域振興
- ・ 水文化
- ・ 広域連携

## 登録されているアドバイザーの分野

## アドバイザー制度創設以降の支援実績件数の推移

令和2年度：3件



令和3年度：6件



令和4年度：6件



令和5年度：6件



令和6年度：14件



令和7年度：7件

※令和7年度は1月までの支援実績



関係者への勉強・講演会



課題を抱える部署への助言



オンラインでの助言

## 静岡県静岡市

1. 形 式: 講演
2. 内 容: 静清地域地下水利用対策協議会総会における記念講演
3. 実施日: 令和7年7月8日
4. 水循環アドバイザー: 金沢大学理工研究域地球社会基盤学系 阪田 義隆 氏

## 愛媛県松山市

1. 形 式: オンライン会議
2. 内 容: 長期的水需給計画改訂への助言
3. 実施日: 令和7年7月25日(1回目)、8月21日(2回目)、8月25日(3回目)、  
11月18日(4回目)、令和8年1月28日(5回目)
4. 水循環アドバイザー: 筑波大学生命環境系 辻村 真貴 氏

## 三重県伊賀市

1. 形 式: 講演・現地調査
2. 内 容: 伊賀市民を対象とした地下水に関する勉強会講師
3. 実施日: 令和7年8月20日
4. 水循環アドバイザー: 大阪公立大学現代システム科学域 遠藤 崇浩 氏

## 長野県小諸市

1. 形 式: 授業
2. 内 容: 高校生を対象とした地域の水の魅力を言葉で表現するワークショップ
3. 実施日: 令和7年9月22日(1回目)、9月29日(2回目)、令和8年2月21日(予定)
4. 水循環アドバイザー: 株式会社ソトコト 指出 一正 氏

## 愛知県

1. 形 式: 講演・現地調査
2. 内 容: 田んぼダムの効果や取組方法等についての助言
3. 実施日: 令和7年10月23日(1回目)、10月24日(2回目)
4. 水循環アドバイザー: 新潟大学自然科学系(農学部) 宮津 進 氏

## 中讃広域行政事務組合(丸亀市、善通寺市、多度津町、琴平町、まんのう町)

1. 形 式: 現地調査・会議
2. 内 容: 地下水汚染に対する適切な水質検査の方法や体制についての助言
3. 実施日: 令和7年11月19日(1回目)、12月8日(2回目)、令和8年1月24日(3回目)
4. 水循環アドバイザー: 香川大学農学部応用生物科学科 山田 佳裕 氏

## 三重県鳥羽市

1. 形 式: 現地調査・会議
2. 内 容: 森林から河川・海域に至る水循環の改善についての助言
3. 実施日: 令和8年1月6日(1回目)、1月28日(2回目)、2月9日(予定)
4. 水循環アドバイザー: 東京大学大学院農学生命科学研究科 蔵治 光一郎 氏

## ■実施日

令和7年7月8日（火）

## ■概要

静岡地区地下水利用協議会総会の記念講演（静岡市）に、金沢大学の阪田准教授がアドバイザー講師として出席し、水資源の実態や地下水の利活用について説明した。



## ■アドバイザー制度を活用した自治体の感想

- 「自己水」を水源とするエリアでは、災害時に早期回復が見られたということだったため、官・民一体での災害時の仕組み構築づくりに向け、災害時協力井戸登録の推進や「地下水」資源の認知度向上に向けた啓発活動等、出来るところから始めていきたい。
- 災害時に「断水」の影響が一番大きかったことや深井戸ほど濁水の回復日数に時間がかかっているというデータはとても興味深く、会員の皆様も「井戸水の活用」について再考するよい機会になった。
- 井戸水の活用の様々な課題がある中で、災害時にどのように井戸を活用するのかということについても、「災害時地下水利用等ガイドライン」をふまえ、行政としても検討を進め、協議会運営の中で普及・啓発運動に携われたらと思う。
- 協議会運営の中で活かせる内容、また地下水利用者の方にも親しみをもって「災害時の地下水利用」について再考できる機会をいただけ、とても有意義であった。

## ■実施日

令和7年7月25日(金)

令和7年8月21日(木)

令和7年8月25日(月)

令和7年11月18日(火)

## ■概要

松山市では、長期的水需給計画の改訂に向けた検討にあたり、筑波大学の辻村教授をアドバイザーとして招き、水需給バランスの評価や新たな水源確保策について、専門的な見地から助言を受けた。



## ■アドバイザー制度を活用した自治体の感想

- 需要・供給の両面で抑えるべきポイントや、本市のこれまでの水資源に関する経緯から、対外的に説明した際に伝わりにくい点などをご教示いただいた。
- 供給可能量の算出方法について、水循環モデルの構築や濁水基準年の設定、取水井取水可能量の算定などの点から妥当性を確認することができた。
- 必要水量について、国のリスク管理型の趣旨について説明していただいたことで、これまでとは異なり複数の水量が提示され、出席者の理解度が高まった。
- パブコメで公表する計画素案について、他自治体等の計画での掲載事例や、市外在住の方により理解していただくために、市内在住では気づかない観点から御意見をいただくことができ、大変参考になった。

## ■実施日

令和7年8月20日（水）

## ■概要

伊賀市では、今後の地下水実態把握に向けた検討にあたり、大阪公立大学の遠藤教授をアドバイザーとして招き、地域住民及び取水事業者を対象とした勉強会において、専門的知見から地下水についての講演を受けた。

## ■アドバイザー制度を活用した自治体の感想

- 懸案事項に対し、他の自治体の事例を踏まえ、丁寧に説明をいただいた。
- 地域住民にもわかりやすい講演をしていただき、聴講された方からは好評をいただいた。
- 地下水ガバナンスについて地域住民や取水業者に学んでもらい、水資源の重要性に対する意識を高めることができ、今後の水循環政策の参考となった。



## ■実施日

令和7年9月22日(月)

令和7年9月29日(月)

## ■概要

小諸市では、水循環全般に対する市民の理解や関心を深めるため、特に若い世代の参画を継続的に促すことを目的に、株式会社ソトコトの指出編集長をアドバイザーとして招き、高校生を対象にした「小諸の水の魅力」を言葉で表現する短文作成のワークショップを実施した。

## ■アドバイザー制度を活用した自治体の感想

- 高校生が地域の水循環について学び、自らの言葉で魅力を表現する力が育まれた。
- アドバイザーの助言により、授業内容が専門的でありながらも高校生にとってわかりやすいものとなった。
- 高校生が「自分ごと」として地域の水環境を理解・発信できるようになった。
- 若年層以外の世代(一般市民)への波及効果はこれからであり、今後は広く市民を巻き込む仕組みづくりが課題と感じた。



## ■実施日

令和7年10月23日（木）

令和7年10月24日（金）

## ■概要

愛知県では、市町村や土地改良区に対して田んぼダムの効果や取組方法等について理解を深めるため、新潟大学の宮津准教授をアドバイザーとして招き、田んぼダムに関する基本的なことから詳細まで幅広い内容で説明を受けた。また、田んぼダムの取組みを予定している圃場について、普及するための助言を受けた。

## ■アドバイザー制度を活用した自治体の感想

- 田んぼダムの効果を発揮するために優先的に取り組むべきエリアについて助言していただき、計画的に取り組むための参考となった。
- 取組実施中の圃場において、流量調整板の高さについて助言（流量調整板を柵高さより低く設定することが望ましい）をいただき、改善につながった。
- 「流域治水」で田んぼダムの果たす役割や効果を分かりやすく説明していただき、更に参加者からの疑問・意見にも的確に回答していただき、活発な研修会となった。



## ■実施日

令和7年11月19日（水）  
令和7年12月8日（月）  
令和8年1月24日（土）

## ■概要

中讃広域行政事務組合では、地元住民の地下水汚染等への不安の払拭や今後の水質検査等の体制構築を目的に、香川大学の山田教授をアドバイザーとして招き、施設周辺及び地元を与える地下水の影響等を調査を依頼し、適切な水質検査の方法や体制の助言を受けるとともに、地元報告会で地元住民との意見交換を行った。

## ■アドバイザー制度を活用した自治体の感想

- 気象の変化による山間部の保水能力の変化、またそこからくる地下水や水質検査結果への影響等を教えていただいた。
- 井戸水検査の見直しについては、深さの異なる井戸で数カ所を検査する事や、より広範囲に渡って地下水等を採水しデータを取った後に、採水ポイントを絞っていく方法等をアドバイスいただいた。
- 積極的に調査していただけた事や、地下水や地質の話などについて地元住民や我々の素朴な疑問でも丁寧に回答をいただけた



地方公共団体の皆様へ

「水」をまもり・いかに地域づくり、始めませんか？

## 水循環アドバイザー制度

費用は無料・専門家を派遣

こんなお悩みはありませんか？

- ✓ 地下水・湧水の保全対策を始めたいが専門知識がない...
- ✓ 水循環の計画を作りたいが何から手をつければいいかわからない...
- ✓ 水や水辺を活かして地域振興につなげたいがノウハウがない...
- ✓ 住民を巻き込んだワークショップや勉強会の講師を探している...

その悩みアドバイザーが支援します！

- Q** 費用は無料  
派遣費用について自治体の負担はありません
- A** 柔軟な支援スタイル  
「現地でのアドバイス」や「勉強会の講師」、「オンラインでの気軽な相談」も可能です
- 手** 事務局が申請をサポート  
どのようなアドバイザーに頼めばよいか分からない場合も、事務局が候補者の選定・調整をサポートします

支援の流れ

- 1** 相談・申請  
自治体から事務局へ支援を相談・申請
- 2** アドバイザーの決定  
事務局が内容を審査。アドバイザーを調整、支援の決定
- 3** 支援の実施  
現地派遣やオンラインによる助言・提言・情報提供等を実施

制度の詳細はこちら  [https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/mizu\\_junkan/support/adviser.html](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/mizu_junkan/support/adviser.html) 

まずは、お気軽にご相談ください！  
TEL：03-5253-8389  
e-mail：hqt-mizujunkan@ki.mlit.go.jp

内閣官房水循環政策本部事務局  
(国土交通省 水管理・国土保全局 水資源部内)